

御陵の風

校長 西岡 浩一 （文責:教頭 藤井 浩彦）



御陵中「校訓」



◆バトンをつなぐ…

12月6日、新旧交代式では、校長先生から、生徒会のみなさんへ当たり前のことができる誇り高い御陵中学校にしていけるよう頑張っしてほしいということや、ここまで御陵中を引っ張り頑張り続けてくれた旧生徒会役員の3年生へ感謝の言葉がありました。そのあと、旧生徒会役員が一人ずつ最後の話をしました。役員として自分が取り組んだこと、十分にできなくて反省していること、支えてくれた友達への感謝、指導・支援してくれた先生への感謝などを多くの生徒が言っていました。そして、最後に後輩の生徒会役員への熱いメッセージとエールを贈っていました。よりよい伝統が引き継がれ、次の世代が努力しまた一歩前進する…これこそが「つなぐ」ということだと思います。こうやって御陵中はますます素敵なお学校になっていくのです。また、旧役員の3年生はこうも言っていました。「とっても大変だったけど、この経験を通して自分は大きく成長することができました」と。「人のために…」「学校のために…」って大変なことだったと思いますが、そうすることでたくさんの人が喜び笑顔になることは、やってみないと味わえないかけがえのない経験だと思います。3年生の役員のみなさん、本当にお疲れ様でした。そして…ありがとうございました！



◆3年生を励ます会(豚汁会)が行われました！



12月7日、毎年恒例の3年生を励ます会(豚汁会)が行われました。子ども達も楽しみにしているこの行事は、3年生にとって大きな壁でもある「受験」を乗り越えてほしいという願いを込めて、保護者の方々が美味しくてあたたかい「豚汁」を振る舞ってくださる日です。

保護者の方々の事前の準備、そして当日の準備は大変なものです。特に、当日は30名以上の保護者の方々が関わって下さり、寒風吹きすさぶ中そして、煙が目にしめる中で一生懸命に作って振る舞って下さいました。子ども達、そして私たち職員も感謝をしながら、心のこもった美味しい豚汁をいただき、身も心も温まりました。本当にありがとうございました！

こんな素敵なことをしてくださる保護者の方々がたくさんいらっしゃる御陵中学校は、やっぱり素敵な学校だと改めて思った一日でした。

今後の行事予定

月	日	曜	行 事	月	日	曜	行 事
1	8	火	3学期始業式	2	1	金	私立高校前期入試 学力診断テスト(1・2年生)
	9	水	冬休み課題テスト		7	木	高校一日体験(2年生)
	17	木	代議員認証式		13	水	おはよう運動[15日まで]
	18	金	新入生入学説明会		14	木	期末考査
	22	火	私立高校専願入試		15	金	期末考査
	23	水	公立高校特色化選抜入試		19	火	学校運営協議会
	24	木	2年生職場体験学習		21	木	学校保健委員会
	25	金	2年生職場体験学習				PTA本部役員会
	29	火	ガン教育学習		27	水	PTA予算審議委員会
	30	水	御陵中ブロック学習会[完全下校13:30]				

◆本年度の卒業式：3月8日(金) 来年度1学期始業式：4月8日(月) 入学式：4月10日(水)

今年の漢字

今年も、12月12日(漢字の日)に清水寺で、一般投票によって決定する「今年の漢字」が発表されました。日本漢字検定協会の理事長が、中身が見えないようにして封筒に入れて持ってくる「今年の漢字」を、京都清水寺の森清範 貫主(清水寺最上位)は例年通りその場で初めて見て、力強くしたためるのです。今年は、応募総数193,214票の中で、20,858票を集めた「災」でした。

ちなみに、ここ五年間を振り返ると、消費税が引き上げられた2014年は「税」、安全保障関連法案の国論が二分したり、建築偽装などが発覚し暮らしの安全が揺らいだりした2015年は「安」、リオオリンピックの金メダルラッシュや政治とお金の問題が浮上した2016年は「金」、そして昨年は、北朝鮮のミサイル問題、九州北部豪雨などを反映して「北」でした。たった一文字とはいえ、それぞれに当時を想起させる不思議な力があります。

そして、今年「災」。「災(さい・わざわい)」という漢字の由来は、ある漢和辞典にはこう書いてあります。

もとは𡇗で、𡇗(川)と一(ふさぐ意)との合字。川の流れがふさがり水が溢れて起こるわざわいのこと。火とあわせ、火によって生ずるわざわい、即ち天火(自然に起こる火事)やわざわいの意を表わす。

北海道・大阪・島根での地震、西日本豪雨、大型台風到来、記録的猛暑など、日本各地で起きた大規模な自然「災」害により、多くの人が被「災」、自助共助による防「災」・減「災」意識も高まり、スーパーボランティアの活躍に注目が集まりました。多くの人が胸を痛め、「災」害を忘れないと心に刻んだ年でした。

以前の学校便りに「西日本豪雨を通して」というタイトルで書かせていただきましたが、「未曾有」という言葉は、もう当たり前のように起こる自然災害を前に、今後は使えない言葉になっていくのかもしれませんが、しかし、その中で人は「生きていることのありがたさや命の大切さ」「人の優しさや温かさ」そして「人の強さや人が力を合わせて乗り越えていくことの大切さ」を改めて学んでいるのだと思います。

様々な災害では、本当に多くの方が犠牲になったり、家族、家…たくさんの大切なものを失いました。本当に心が痛みます。家族を亡くされた方、家を失った方などは、生きることに絶望をされるほどのことです。そこでふと、私たち「生きている」人間は思います。

日常の当たり前がどれほど幸せなことかを…。様々な困難や苦しいことがあっても、「命」があり毎日を生きていることがどれほど尊いことかを…。私たちがこの世に生まれたことが、どれほど奇跡的であるか、どれほどこの命がかけがえがないかを学んでいると思うのです。そして、支えてくれる人、叱ってくれる人、教える導いてくれる人がいることがどれほどありがたいかを…。周りにいる人がどれほどかけがえがないかを、すべての人との出会いがどれほどかけがえのないものを改めて感じさせてくれるのです。そして、「誰かのために」何ができるのか？考えるのです。

毎日私は、周りにいらっしゃる先生方にたくさん支えてもらい、大好きな教職という仕事ができます。子ども達のため、学校のためと、自分の時間を使って協力してくださる御陵中の保護者の方々がいらっしゃいます。朝から、立ち止まってさわやかな挨拶をしてくれる子ども達があります。声をかけると笑顔で「ありがとうございます！」と言ってくれる素敵な子ども達があります。本当にありがたいことだと、日々感謝しています。

2018年そして平成30年がもうすぐ終わろうとしています。「災」の多かった年かもしれませんが、たくさんの方々に、自分のかけがえのない「命」に、いま、生きていることに感謝しながら新しい年を迎えたいと思います。「災い転じて福となす」という言葉があります。一人一人の力は小さくても力を合わせればとてつもない力になることを、人は今までも長い歴史の中で証明してきました。被災地の方々はどんなに苦しくても復興へ向けて、強くたくましく生きていらっしゃいます。ぜひ、それぞれが日々を振り返り、「今日も一日ありがとうございます」と感謝をして明日を迎えられたらと思います。

最後に・・・保護者の皆様、地域の皆様、本校の教育活動に多くのご協力とご支援をいただき、誠にありがとうございました。来年が皆様にとって素敵な年になりますよう、また、御陵中学校の子ども達の未来がますます明るいものになるよう心から願っております…